



組織活性室
総務委員会
理事委員長
熊本 雄介



輝気~切り拓こうこの倉敷の未来を~

組織活性室
専務理事
合田 英弘

郷土創造室
副理事長
近藤 望

未来開発室
副理事長
内田 雄介

人財育成室
副理事長
木村 健悟

人財育成室
常任理事長
土倉 佳奈



未来開発室
常任理事室長
守屋 亮佑

岡田体制を支える16理事を一挙解説

組織活性室
常務理事
宗田 行弘



郷土創造室
常任理事室長
榊原 浩太朗

人財育成室
青少年育成委員会
理事委員長
諏訪 岳史



人財育成室
会員研修委員会
理事委員長
竹内 良太

未来開発室
地域開発委員会
理事委員長
川上 啓輔

未来開発室
人間力向上委員会
理事委員長
三宅 裕太

組織活性室
交流連携委員会
理事委員長
小川 忠司

出向理事
岡本 亮一

郷土創造室
65周年特別委員会
理事副委員長
下原 将貴



倉敷青年会議所はSDGsを推進しております

倉敷JC広報案内

★毎月第1木曜日 14:30~14:40 頃
エフエムくらしきにて「くら・ラジ!」
絶賛放送中! (HPにて過去の放送分
をお聞きいただけます。

★4月よりKCTにて「くら・プレ!」
放送予定! 乞うご期待!!

公益社団法人 倉敷青年会議所 SDGs宣言



倉敷JC SDGs宣言
世の中の幸福に貢献するために

宣言文
公益社団法人倉敷青年会議所は、地域社会の発展を考えた活動・運動の推進を通じて、持続可能で豊かな社会を目指したSDGs (持続可能な開発目標) 達成に向け、取り組むことをここに宣言します。

行動指針

- ・SDGsの理念に沿った活動・運動を行います。
- ・次世代の担い手を育成するための多様な教育機会の提供・拡充に努めます。
- ・地域の子どもや大人、企業、NOPO、NGOなどのステークホルダーへのSDGsの理念の普及に努めます。
- ・環境保全や美しい環境の創造に取り組む人材を育成するとともに、環境負荷の低減に取り組むことに努めます
- ・地域全体で持続可能な社会の実現に向けたパートナーシップの活性化に努めます。

倉敷JC特報 KURASHIKI TOKUHO

徹底取材

「ローガン」輝かがやき(気き)の切り拓こうこの倉敷まらちの未来を、
「基本理念」無限の可能性を信じて果敢に挑戦しよう「ひと」が輝きまらちが輝く活力ある倉敷のために
「基本方針」▼人財育成室 自発的な挑戦から成る輝ける人財の育成▼未来開発室 持続可能な地域の実現と市民と共に育める地域貢献▼多様な人づくり▼郷土創造室 新たなまちづくりの挑戦▼未来への組織体制の拡充▼組織活性化室 同志交流による信力を高め公益性ある団体と協働する組織運営

理事長

尚田光弘

倉敷JC65周年の節目に



はじめに

私たち日本人において「輝き」とは、周りを明るく照らすものであり、他には無いまぶしく力強いものの表現として古来より多く用いられてきました。言い換えれば、人々に明るさをもたらす希望であり、周囲を牽引する象徴的な存在であることも意味します。

私たちが倉敷青年会議所は設立当初より「明るく豊かな社会の実現」を目指し、我々が倉敷の発展に向けて青年会議所運動に力を注いでまいりました。常に変化する時代の流れに対応しながら脈々と受け継がれた高い志と信念を胸に、現在も愛する我がまち倉敷のために日々運動を展開しております。その中で私たちの運動が活動する地域において常に「輝き」を放つことが、「明るく豊かな社会の実現」のために必要不可欠であると確信しております。倉敷青年会議所自体が地域の「輝き」となり、地域に暮らす人々に希望や誇りをもたらす、進むべき方向性を示すことこそが我がまち倉敷になくしてはならない団体として存在する意味があると考えます。

平成30年7月豪雨災害支援について

我がまち倉敷にも甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨災

害から1年以上が経過した今もなお、最も被害の大きかった真備地域においては被災された方々の多くが仮設住宅等での生活を強いられ、子どもたちも避難先からの遠距離通学を余儀なくされるなど、被災地の復旧・復興はまだまだ道半ばです。倉敷青年会議所では災害発生翌日から、社会福祉協議会や避難先の小学校、県内外の青年会議所と連携し、緊急支援から人的支援、復興事業といった様々な災害支援活動を行ってまいりました。本年度も引き続き被災された方々に寄り添い、今必要とされる支援ニーズに俊敏に応え、被災前の輝きを取り戻すべく、一日も早い復旧・復興を目指して災害支援活動を継続してまいります。

創立65周年を迎えるにあたって

倉敷青年会議所は全国で80番目の青年会議所として1956年に創立されて以来、英知と勇氣と情熱をもって、明るい豊かな倉敷の創造に向けて様々な運動を展開してまいりました。これまで長きに渡り築き上げてきた活動と数々の功績に敬意と感謝の念を表すとともに、創立65周年という節目の年に今一度、時代の移り変わりに即した運動を見出すことが重要であると考

結びに

本年は日本で56年ぶりに東京2020オリンピック・パラリンピック大会が開催される感動の年になります。この大会は、「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、「二人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、「そして、未来につなげよう(未来への継承)」という3つのコンセプトを掲げており、これらは正に青年会議所が追求する「明るく豊かな社会の実現」をする上で青年会議所運動の根幹と同じであると言えます。選手たちは輝ける舞台を求め、光輝くメダルを目標に誰にも負けまいと日々の練習を積み重ねます。輝きを求める者は、気持ちが高揚し、気持ちが輝く者は周囲を輝かせ、やがて全体をその光で包み込むでしょう。「ひと」が輝き、「まらち」が輝く、活力ある倉敷を実現するために、私たちは無限の可能性を信じて果敢に挑戦し、相集い力を合わせ、一人ひとりが光輝く気概と覚悟を持って新たな倉敷(まらち)の未来を切り拓いてまいります。「輝くJC 明るい希望 足なみをそらえて 行こうじゃないか」

